

TOP Seminar NEWS 特別版

12/17 (土)

弘前大学教育学部附属中学校入試が行われます！

《ポイント》

募集人員 128 名で変更なし (外部合格者予測は約 50 名)
入試方式に変更なし。

(1) 募集人員の移り変わり

附属中学校の募集人員は、200名→190名→165名→128名と削減されてきました。

最初の削減となったのは、2011年度入試ですが、この年は実質定員割れとなったための措置と思われる。特に予告なく実施されました。倍率は1.0～1.7倍程度となりました。2015年度入試では、25名の削減となります。これは、38名5クラス→33名5クラスとするための措置でした。どちらかといえば少人数学級の実践検証のためのものとなります。この削減により、外部からの合格者数は約100名→65名(前年比約3分の2)となりました。倍率は変更直後の2年間は2.1～2.5倍程度の高い数値となっていました。その後1.2～1.8倍程度となりました。

この流れを踏まえますと、数年後にさらなる削減の可能性も考えられますので、今年受験生でない場合も、他人事ではありません。「少しくらい倍率が上がっても大丈夫」のように、日々努力を積み重ねておきましょう。

(2) 2023 (令和5) 年度入試の予想倍率

まずは、過去のデータをまとめてみましょう。

| 年度 | 受験者数 (推定・男女) | 推定倍率 | |
|------|-----------------|-------|-------|
| | | 男子 | 女子 |
| 2022 | 84 | 2.78倍 | 2.43倍 |
| 2021 | 70 | 1.77倍 | 1.48倍 |
| 2020 | 106 | 1.26倍 | 1.20倍 |
| 2019 | 123 | 1.82倍 | 1.79倍 |
| 2018 | 116 | 1.23倍 | 1.75倍 |
| 2017 | 121 | 1.55倍 | 1.55倍 |
| 2016 | 145 | 2.50倍 | 2.10倍 |

附属中入試の受験者は、少子化の影響もあり減少傾向です。とくに令和3年度は定員削減が重なり、高倍率が予想されていたため、激減しました。令和4年度は微増しましたが、それでも以前のように「百数十人がチャレンジ」という入試ではなくなりました。

実際の志望者は、トップゼミナールで受講する外部受験者に対しおおよそ4～5倍程度になることが多いので、潜在的な志望者は100名程度いると思われます。志

望者全員が受験に挑む場合の倍率は「約2倍」となります。保護者説明会後、附属中通学の負担などから受験を回避する方もいますので、昨年度程度の受験者数(約80～90名)に落ち着くと思います。この場合の倍率は、「1.6～1.7倍」となります。

令和4年度ほどではありませんが、それでもかなりの高倍率となります。

(3) ボーダーライン

| | | 合格者平均点 | ボーダーライン |
|------|----|--------|---------|
| 2022 | 男子 | 170.0 | 168 |
| | 女子 | 165.3 | 165 |
| 2021 | 男子 | 153.3 | 136 |
| | 女子 | 149.7 | 127 |
| 2020 | 男子 | 151.1 | 125 |
| | 女子 | 144.7 | 120 |
| 2019 | 男子 | 165.0 | 141 |
| | 女子 | 154.5 | 139 |
| 2018 | 男子 | 148.0 | 128 |
| | 女子 | 151.8 | 131 |
| 2017 | 男子 | 153.9 | 135 |
| | 女子 | 152.4 | 120 |
| 2016 | 男子 | 150.8 | 140 |
| | 女子 | 133.8 | 115 |

「倍率が上昇する＝ボーダーラインが高まる」と考えがちなのですが、実際の結果は一概にそうとも言えません。附属中入試においては多少倍率が上昇してもボーダーラインが大きく変化することはあまりありません。ボーダーラインが大きく変化するのは、「極端に倍率が高くなった(低くなった)」とき、または「問題の難易度が高い」ときです。高校入試や大学入試でも同様の傾向が見られます。「倍率の高い学校＝高学力の学校ではない」のは皆さんも理解できると思います。ボーダーラインは少しだけ上下するかもしれませんが、合格にふさわしい学力はあまり変化しないのです。皆さんも、自分の学力を合格できるレベルに高めることだけに集中して、学習してください。

裏面につづく

「附中入試直前演習」実施！

通常授業・土日附中入試コースで身につけた知識を、
実戦のくり返しで

「合格する力」に変える！！

弘前トップゼミナールでは、2019年度附中入試より「附中入試直前演習」を実施しています。

この講座は、今まで培った合格に必要な知識・テクニックを再確認し、自信を持って入試本番に臨めるように設置したものです。

「できるはず」は入試の落とし穴！

「できるはず」と思っていることでも、本番では思ったようにできないこともあります。できる問題も制限時間内に解き終われないこともあるでしょう。また、できる限り勉強してきたつもりでも、自信がなければ解答に迷います。

附中入試本番で、いつも通りに自信を持って解答するためには、何が必要か？

それは「本番を想定した実戦をくり返すこと」です！

*** トップからのお知らせ ***

★ 37.5度以上の熱がある場合は授業は受けられません。保護者様に連絡の上で帰宅していただきます。

日ごろから帰宅後のうがい・手洗いを習慣化して感染症予防に努めましょう。各会場には消毒液を用意してあるので、活用してください。また、教室内ではマスクを着用するようにしましょう。授業中、具合が悪くなったら無理をせず申し出てください。

欠席する際は必ず事務局に電話かメール、ファクスで連絡して下さい。

★ 欠席連絡は原則的には保護者様からお願いします。

★ 本部出入り口脇の自習ブースは勉強したい人のためのスペースです。勉強している人の迷惑にならないよう大きな声での会話などはひかえましょう。

携帯電話等でゲームをするのも禁止です！

★ 飲食は決められたスペースでのみ許可します。

なお、カップ麺類や「おでん」等の汁ものは持ち込み禁止です。

★ 授業終了後は、近隣の住民の方の迷惑にならないよう、騒いだりせずにすみやかに帰宅してください。

* 教室内の忘れ物について *

最近、忘れ物が増えています。

ルーズリーフやテキストなど貴重品以外の忘れ物は教室にそのまま置いておきます。所有者は次の授業時に持ち帰ってください。一定期間、所有者があらわれないものは処分します。

★★★ 附中入試直前演習の内容 ★★★

実施科目は、もちろん国数算理の入試4科目！
各科目 80分×2回の授業で実戦演習と解説！

実際の授業はこのように進行します。

- ① 短縮した制限時間に入試問題を実際に解く！
- ② 自己採点！
- ③ 問題解説と注意事項の確認！

ひとつの授業(80分)で、演習を2回行います。

つまり、各科目4年分の入試問題を、実戦として解き、課題をみつけ、そして解決した状態で、附中入試本番に臨んでもらいます。

この、授業を通して、自分の学力の最終チェックを行い、さらに必要な知識を補充、注意事項を確認する。そして、他の受験生よりもやりきったという「自負」を手に入れてください。

「できることは全てやった」状態で、
受験に臨みましょう！

* 学校行事について (小学生) *

学校行事での欠席について、他の事由での欠席と同様に「欠席者プリント」での対応となります。あしからずご了承下さい。延期、中止など変更がありましたらお知らせ下さい。

*** 今後の予定 (小学生) ***

・10/29(土) [小4,小5] 全統小テスト対策授業

・10/29(土)30(日) 小6土日附中入試コース第10回 (注意:科目変更あり)

・11/3(木祝)文化の日 全国統一小学生テスト 通常授業実施

・11/5(土)6(日) 小6土日附中入試コース第11回

・11/19(土)20(日) 小6土日附中入試コース第12回

・11/23(水)(祝) [小6] 第6回 附中入試公開テスト [小6外部受験予定者] 模擬面接 通常授業実施

・11/26(土)27(日) 小6土日附中入試コース第13回

・11/3(水) [小6] 振替授業12/20(火)分

・12/2(金)～ [小6] 附中入試直前演習 開始

・12/3(土)4(日) 小6土日附中入試コース第14回

・12/10(土)11(日) 小6土日附中入試コース第15回

・12/17(土) 令和5年度弘大附属中入試 附中入試「解答速報」

・12/21(水) 2学期通常授業最終日

・12/22(木)～1/17(火) 冬期講習会期間

